

**京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書**

2019年 10月 2日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 農学研究科

職 名・学 年 博士後期課程・1年生

氏 名 山崎 彬

助 成 の 種 類	<b>2019年度 ・ 国際研究集会発表助成</b>	
研 究 集 会 名	17th EUCARPIA meeting on Capsicum and Eggplant	
発 表 形 式	<input type="checkbox"/> 招 待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口 頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他( )	
発 表 題 目	Searching for the genes involved in the dramatic improvement of the percentage of fruit set in the F <sub>1</sub> hybrids of <i>Capsicum chinense</i>	
開 催 場 所	フランス・アヴィニョン	
渡 航 期 間	2019年 9月 9日 ~ 2019年 9月 16日	
成 果 の 概 要	<b>タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料</b> <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )	
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	300,000 円
	使用した助成金額	300,000 円
	返納すべき助成金額	0 円
	助 成 金 の 使 途 内 訳	旅費： 255,500 円
		参加登録費： 45,000 円
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 海外での学会での発表の助成を頂きましたが、利用の制限が少なく、幅広くさまざまな学会への参加で利用させて頂くことができるために大変助かりました。	

2019年9月18日

私は貴財団の国際研究集会発表助成を利用して、2019年9月10日から13日に開催された17th EUCARPIA meeting on Capsicum and Eggplant に参加しました。

EUCARPIA はヨーロッパの植物育種に関する NPO 法人であり、多数の大学や研究所、企業の研究者が所属しています。私が参加した 17th EUCARPIA meeting on Capsicum and Eggplant はトウガラシおよびナスを専門とした部会で、3年に一度、ヨーロッパのいずれかの国で行われています。今回の会議は通算17回目となる開催で、フランス・アヴィニョンの教皇庁という非常に長い歴史のある建物で行われました。ヨーロッパを中心として、アジア、アメリカを含む多数の国から約200人の研究者が集まり、各々の研究成果を発表し合いました。本学会では、口頭発表が36題、ポスター発表が72題ありました。

私の発表は **Resistance to biotic and abiotic stresses** 部門の最後でした。本学会における発表が、私にとって初めての海外での口頭発表だったのですが、今回の発表をすることで多くの刺激を受けました。まず、英語でプレゼンテーション資料を作ることが初めてだったために、英語で分かりやすい資料を作るためにたくさんの工夫をしました。資料を作るに当たって、プレゼンテーション資料の作り方に関する本を読み込んだり、先輩、先生方のプレゼンテーション資料を見て表現の方法を学んだり、研究発表の技能を向上する上で大切だと思えることに時間を割きました。また私の口頭発表に対して質疑応答の時間中に3人の方から質問を受け、また発表後の休み時間にも多くの方からコメントを頂きました。これらの研究者の方々は世界中で長年トウガラシを中心に研究されており、その経験に基づいた鋭い視点からの質問のやりとりは私の研究人生に刺激を与えるものでした。

また、学会一日目である9月11日の午後には、**technical visit** でフランスの農学の研究機関である INRA の研究所を見学させて頂きました。INRA 研究所ではナスおよびトウガラシを用いて行っている研究の実験用の設備や植物を見ることができました。遺伝資源の収集を行っており、特にトウガラシの遺伝資源は世界中から集められたトウガラシの系統が、一枚の畑に栽培されている様は圧巻でした。その遺伝資源はヨーロッパ中から資金を集めて、ゲノム情報を含めて、一般に公開される予定とのことでした。ヨーロッパの研究者、研究機関が協力して進めているプロジェクトの壮大さに驚かされました。

今回の学会参加で、研究を行う上での国際交流の大切さを痛感しました。アジアやアメリカ、そしてヨーロッパの広い地域からの参加者が集まった今学会では、英語での会話力の重要性を再認識させられました。これまで、京都大学へ留学に来ている東アジア圏の留学生の

英語話者とは、話をすることができていました。しかし、今学会の広く世界中から人が集まる場では、様々な地域で生活している人の、さまざまな方言を含む英語に対応できるだけの英語力が必要でした。また、世界中の研究者を前にして臆せずに英語で発信できる会話力も身につけるべきだと感じました。参加していた研究者の中には、既に研究の協力体制をとっており、グループとして研究を進めている方々が多くいました。そのような協力体制をとっているグループは研究の進行スピードが早いと感じました。自分も研究の中の必要な局面では海外のグループも含めて、共同研究の体制を作れるようにしたいと考えました。そのためにも、英語でのコミュニケーション力をさらに高めたいと決意を新たにしました。

今後、今回の学会での経験を糧にして、園芸学の世界で国際的に活躍できるように努力したいと考えております。このような経験をする事ができたのは、貴財団の基金があつてこそでした。改めてお礼申し上げ、結びとさせていただきます。本当にありがとうございました。

